



## 2025年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年5月9日

上場会社名 北海道コカ・コーラボトリング株式会社 上場取引所 東・札  
コード番号 2573 URL <https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>  
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 酒寄 正太  
問合せ先責任者(役職名) 執行役員グループ経営管理部長 (氏名) 神埜 亨 TEL 011-888-2051  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年12月期第1四半期の連結業績(2025年1月1日~2025年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第1四半期	12,693	2.1	267	66.8	279	53.3	153	△12.2
2024年12月期第1四半期	12,437	2.5	160	—	182	—	174	—

(注) 包括利益 2025年12月期第1四半期 130百万円(△24.6%) 2024年12月期第1四半期 173百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第1四半期	11.29	—
2024年12月期第1四半期	12.86	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第1四半期	52,972	42,042	79.4
2024年12月期	51,913	42,116	81.1

(参考) 自己資本 2025年12月期第1四半期 42,042百万円 2024年12月期 42,116百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2025年12月期	—	—	—	—	—
2025年12月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年12月期の連結業績予想(2025年1月1日~2025年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	57,900	1.8	2,500	13.4	2,450	10.9	1,550	0.3	113.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期 1 Q	13,607,996株	2024年12月期	13,607,996株
② 期末自己株式数	2025年12月期 1 Q	852株	2024年12月期	852株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期 1 Q	13,607,144株	2024年12月期 1 Q	13,607,391株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2025年1月1日～2025年3月31日)におけるわが国を取り巻く経済状況は、賃金、雇用情勢の改善が続く中で、個人消費は緩やかながらも増加基調を維持するとともに、企業の設備投資の増加は続く見込みであり、景気全体は回復基調にありました。一方、人件費や物流コストの増加などによる物価上昇や労働力不足、国際経済の影響により、先行きは不確実な状況であります。

このような状況の中で、飲料ビジネスでは当社を代表する基幹商品であるコカ・コーラの販売拡大を最優先営業戦略に置き、スーパーマーケット等の量販店ではコカ・コーラと食料品とを一緒に陳列するフードクロス陳列で売り場拡大を実施し、自動販売機では学生をターゲットにしたロケーションや、飲食店に対してコカ・コーラの取り扱いを増加させる取り組みを実施しました。

また、主力カテゴリーである日本茶商品の販売強化を実施し、北海道民に昔から親しまれている番茶(=ほうじ茶)を「綾鷹 番茶」の名称で北海道エリア限定商品として新発売したほか、「綾鷹 茶葉のあまみ」、「綾鷹 ほうじ茶」をリニューアルしました。綾鷹ブランドの新発売・リニューアルに合わせて、量販店では、複数の売り場の展開と品揃えの拡大に注力しました。

自動販売機ビジネスでは、人手不足が深刻な医療・福祉業界において今まで施設スタッフが行っていた給茶業務を自動販売機が担う提案により、社会課題の解決と自動販売機の設置・売上増につながりました。また、Coke ONアプリを活用した北海道民限定の「北海道をもっと体験キャンペーン」等により、自動販売機の利用促進につながる取り組みを実施いたしました。

その他、「紅茶花伝 無糖 アールグレイアイ스티ー」、「ミニッツメイド ゼロシュガーレモネード」を新たに発売いたしました。

グループビジネスにおいては、当社グループが持つ物流網やオペレーションサービスを活用することで、得意先のコスト削減、人手不足といった課題解決に協力する取り組みを実施いたしました。特に、物流コストや人手不足の解消につながる混載輸送や物販自動販売機の設置・オペレーションによる得意先の省人化は、大きな成果を得ることができました。

その他、照明工事や清掃業務受託と飲料自動販売機の新規設置をパッケージ提案するなど飲料ビジネスとのシナジーを活かした活動による業績拡大や、物流事業においてはタンク輸送や農産物輸送、バックオフィス事業においては給与計算業務と定期清掃業務、メンテナンス事業においては機器の定期点検業務、照明器具の交換工事の各受注提案に注力いたしました。

社会に対する取り組みでは、3月に当社グループのDE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)に関する考え方や姿勢を発信するためにステートメントを策定し、当社グループは、全ての人々にとってウェルビーイングな企業を目指し、互いの違いを認め、尊重し合い、一人ひとりがスマイルで活躍できるような取り組みを推進することを表明いたしました。その具体的な活動のひとつとして、一般社団法人HAPPY WOMANが取り組む「すべての女性が自分らしく幸せに生きられる未来の共創」を応援するための自動販売機の運用を開始いたしました。

また、北広島市と地域の一層の活性化及び市民サービスの向上を目指すことを目的に締結している、「まちづくりに関する包括連携協定」に基づき、スポーツ・食・観光産業の高次交流拠点を形成し、北海道の魅力と活力向上につながることを目的に、地域の皆様が「ボールパーク構想」の支援ができる「ボールパークまちづくり応援自動販売機」を設置いたしました。

環境に対する取り組みでは、札幌市、トヨタ自動車北海道株式会社と連携して、水素と空気中の酸素の化学反応により電気を発生させ水素発電ユニットを使用した自動販売機を第75回さっぽろ雪まつりの「GX脱炭素エリア・無料休憩所」に設置いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は道外ボトラーへの販売が減少したものの、スーパーマーケットや自動販売機、Web販売等の伸長に加え、価格改定が奏功し12,693百万円(前年同期比2.1%増)となりました。利益面につきましては、原材料資材・エネルギー価格の高騰は続いているものの、道内販売の伸長に加え、継続した収益改善の取り組みにより、営業利益は267百万円(前年同期比66.8%増)、経常利益は279百万円(前年同期比53.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年の固定資産売却益の反動により153百万円(前年同期比12.2%減)となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の資産、負債、純資産については、総資産は、商品及び製品の増加などにより、前連結会計年度末に比べ1,059百万円増加し、52,972百万円となりました。

負債は、買掛金や未払金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ1,132百万円増加し、10,929百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ73百万円減少し、42,042百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年2月7日に公表いたしました予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,246	9,988
受取手形及び売掛金	6,329	5,854
電子記録債権	0	0
商品及び製品	4,824	5,072
原材料及び貯蔵品	565	657
その他	1,689	2,690
貸倒引当金	△2	△3
流動資産合計	23,653	24,259
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,497	6,394
機械装置及び運搬具（純額）	4,855	4,993
販売機器（純額）	4,237	4,405
土地	6,106	6,106
建設仮勘定	425	592
その他（純額）	1,174	1,161
有形固定資産合計	23,296	23,653
無形固定資産		
ソフトウェア	1,192	1,204
その他	8	8
無形固定資産合計	1,200	1,212
投資その他の資産		
投資有価証券	693	693
繰延税金資産	—	9
退職給付に係る資産	2,898	2,970
その他	187	189
貸倒引当金	△15	△15
投資その他の資産合計	3,762	3,846
固定資産合計	28,259	28,713
資産合計	51,913	52,972

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,719	3,354
リース債務	293	298
未払金	1,757	2,330
未払法人税等	431	179
賞与引当金	—	272
設備関係未払金	240	495
その他	2,912	2,613
流動負債合計	8,354	9,544
固定負債		
リース債務	798	782
繰延税金負債	467	433
資産除去債務	84	83
その他	92	85
固定負債合計	1,442	1,385
負債合計	9,797	10,929
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,935	2,935
資本剰余金	4,924	4,924
利益剰余金	33,899	33,848
自己株式	△1	△1
株主資本合計	41,756	41,705
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	360	337
その他の包括利益累計額合計	360	337
純資産合計	42,116	42,042
負債純資産合計	51,913	52,972

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年1月1日 至2025年3月31日)
売上高	12,437	12,693
売上原価	8,531	8,598
売上総利益	3,906	4,095
販売費及び一般管理費	3,745	3,827
営業利益	160	267
営業外収益		
受取賃貸料	10	9
助成金収入	15	4
その他	15	16
営業外収益合計	41	30
営業外費用		
固定資産除売却損	10	13
寄付金	1	1
その他	7	3
営業外費用合計	20	18
経常利益	182	279
特別利益		
固定資産売却益	77	0
特別利益合計	77	0
特別損失		
固定資産除売却損	0	6
リース解約損	1	0
特別損失合計	1	6
税金等調整前四半期純利益	257	273
法人税、住民税及び事業税	139	165
法人税等調整額	△56	△44
法人税等合計	83	120
四半期純利益	174	153
親会社株主に帰属する四半期純利益	174	153

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
四半期純利益	174	153
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	—
退職給付に係る調整額	△9	△23
その他の包括利益合計	△1	△23
四半期包括利益	173	130
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	173	130

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社グループの事業は、北海道を主な販売地域とする飲料の製造・販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	482百万円	536百万円